

# 風水訪問実地鑑定

風水の知識は約6000年前、古代中国で生まれたとされ、「堪輿かんよ」と呼ばれました。

晋代になり、「葬書そうしょ」(郭璞かくはく著)の一節

「乗風則散 界水則止 気は風に乘れば散り、水に会えば止る」から風水と言われるようになりました。

この一節は、風水理論を簡単に説明しています。

大地の吉エネルギーは、強い風から吹き晒されるのを嫌い、左右に小高い山、背後にサポートする山、前方にエネルギーを留める水やオープンスペースが必要なのです。

また、風水環境は、そこに住む人の運の土台となり、今の運気の底上げをしてくれます。

風水師が現地を訪問、図面だけでは分からない土地の高低や天井や床、柱の状態、家具の配置、窓からの景色や周囲の環境をチェックします。鑑定法は、玄空飛星、八宅、陽宅三要の3つ。

更に、大きな特徴は、Geo Patric Stress Line調査を行います。

[http://dowsing.jp/article/022geopathic\\_stress.html](http://dowsing.jp/article/022geopathic_stress.html)

「風水用品設置サービス」は奇門遁甲で良い日時をお調べして行います。別途\$190

鑑定作成に、10日程かかります。

混み合う場合は、お待ち頂くこともありますので、ご了承下さい。



ご新居風水鑑定 CA90248 Apr.2021

**鑑定方法**

- 轡頭** 目に見える形からの吉凶判断。
- 理気** 目に見えない吉凶。古代中国王朝は風水が民衆や他国に広まらないよう禁じましたので口伝も多く、限られた文献しかありません。文化大革命以降、日本、台湾、香港、欧米に渡った風水師によって世界中に広まりました。

**玄空飛星派** 中国、香港、台湾など世界的に支持されている鑑定法です。玄空の「玄」は「時間」、 「空」は「空間」を表し、時の変化を考慮した清代以降の技法です。文革以降、欧米にも広がり「フライングスター風水」と呼ばれています。

**轡頭らんとう**(見た目の風水)

- もし窓から鉄柱が見えるようでしたら、『八卦凸面鏡』が必要です。目や頭、心臓に障害が出やすくなります。
- 2階のテラス部分が欠けています。風水で理想の形を四角形としますが、欠けがあるとその方位の持つ運気が家に繁栄されないと云います。家の中の各角に『水晶球』を置き、間の壁に『ひょうたん』をかけて下さい。
- 玄関ドアを開けると正面にガレージのドアがあります。玄関は、気口と言われる「気」の入口ですので非常に重要です。良いコンディションに保つ必要があります。玄関ドアを開けますと、正面にガレージドアが対峙しています。そのため、ホールの気が乱れやすくなり、良い気が入ってきにくくなります。心理的にも落ち着かない玄関です。気の乱れを整えるために、ガレージドアのサイドかドアに『ミニ羅盤』をかけて下さい。
- 座山が弱い家です。家の前方を「向」と言い、財を司ります。後方を「座山」と言い、人間関係運や健康運を司ります。こちらの家は、座山に当たる部分に1階はガレージのドアの開閉で座山を崩し、2・3階はシンクの水で座山を崩しています。座山を家の中に作って下さい。山を連想するよう大きく高い『アメジストドーム』を3階寝室の北方位に設置して下さい。
- 玄関入って右側は、龍(男性)の位置です。風水では、向かって右を龍の位置=優位と考えます。右側が広く大きいのが理想ですが、そうでない場合は、少し高い位置に『龍』を設置し、優位にします。こちらの御宅は、右側が全て階段になっており、龍位が階段の昇降で気が乱れやすいので、尚更右側を優位にする必要があるでしょう。

2021 子山午向				
	南			
34	88	16		
7	3	5		
東	25	43	61	西
6	8	1		
79	97	52		
2	4	9	北	

中吉  
大吉

現在の繁栄  
9 近い将来の繁栄

半吉半凶  
最大凶  
最大凶  
吉凶  
小凶  
最大吉  
大吉